

アイ・ティー・オー ブースNo.45-1

新規ビタミンC誘導体を中心に 様々な原料を展開

アイ・ティー・オーではビタミンC誘導体を中心としたオリジナル原料中心に出展する。展示の中心となるのは、年々取扱い量が増えており、医療機関では話題になっ

ている新規ビタミンC誘導体の「GO-V-C」、ブラジル産の100%天然ミネラルクレイの「SPARCLEY」、T ERSIL、海外でも取引実績があるビタミンC/E誘導体で構成されたマイクロカプセルの「ナノスフィア」である。

ミネラルクレイの「SPARCLEY」「TERSIL」は合成着色料や合成色素を一切使用していない100%天然由来成分である。色のバリエーションも8色と多く展開しており、エコサート認証も受けている。また、皮膚弾力性、ヘアキューティクルの改善、美白作用といった新しい臨床データも豊富に取り揃えている。洗顔料やメイクアップ、ヘアケア製品等、多くの取扱実績がある「ナノスフィア」はアイ・ティー・オーが独自で開発した唯一無二のオリジナルマイクロカプセル原料である。核となる有効成分を浸透させることができ、また有効成分の安定性も高まるという大きな利点が話題を呼んでいる。

近年は日本国内のみならず、中国においても取扱いが増えており、今後海外への実績が増える見込みだ。ブースにはナノスフィアの構造を模ったオリジナル模型も展示される。

一番の注目の「GO-V-C」は、アスコルビン酸に保湿効果があるグリセリンとアクネ菌増殖抑制効果があるオクタノールを結合させた新規ビタミンC誘導体である。油性、水溶性両方に親和性があり、ビタミンC誘導体本来の特性はもとより、新たにメラノソームの輸送阻害についても解明されおり、美白作用にも期待がもてる。開発最終日の1月22日(水)13時15分より「驚きの効果!最新型ビタミンC誘導体GO-V-Cの最新研究について」と題し、新たな研究内容について発表する。

洗顔料や化粧水、ジェルの配合ができるのも特徴である。

国内、海外問わず採用実績があり、特に海外は堅調に推移している。

それ以外にも展示ブースには玉ねぎから抽出した「ケルセア20」、育毛原料の「桑白皮エキス」、無農薬農場と提携して生まれた「イチゴ果実エキス」も魅力的だ。今回はこれら成分を包接したナノスフィアも初公開する。

全ての原料にエビテンズが豊富に取り揃えられており、ワールドワイドに活躍の幅を広げている。

各コーナーとも原料の特徴など掲載したポスターや最終製品の一例も掲

示する。原料の特徴をわかりやすくまとめたカルテ仕様の資料も用意している。

また、OEMも展開しており化粧品だけではなく、サプリメントもロットからの製造を受託している。

ビタミンCをモチーフにしたアイ・ティー・オーのオリジナルキャラクター「うるっぴー」がブースでお出迎えをする等、バラエティーに富んだブースとなっております。

インスタ映え間違いなしだ。先着でうるっぴー手提げバッグも配布されることなので、ぜひ一度ブースに足を運んでみてはいかがでしょうか。

DMA ブースNo.31-11

「無加水・非加熱」製法による 高純度プラセンタを実現、低臭化も

DMA(ディーエムエー)は、北海道にある自社工場です。特殊製法を用いた豚由来プラセンタ原料の研究開発・製造を行い、プラセンタ化粧品を中心

に化粧品OEMビジネスを展開している。直近では、水も熱も水もいっさい加えない「無加水・非加熱」製法による高純度なプラセンタ原料の開発に成功し、2019年春から販売を開始している。初出展となる第10回化粧品開発展では、プラセンタ原液をはじめ様々なプラセンタ化粧品を開発サンプルとして用意し、「無加水・非加熱製法」のプラセンタ品質の理解促進を図る。また、開催初日の1月20日11時から「プラセンタと成長因子」について原料セミナーを行う。

同社は、通販を中心としたヘルス&ビューティケア商材の広告制作業を

祖業に、顧客のニーズに応える形で商品の企画開発、そしてOEM事業へと業容を拡大してきた。そこで培ったノウハウや資材調達・製造工場などの開発ネットワークを用いて、化粧品企画設計から製造、販売・プロモーションまでの一貫したサービスを構築している。同社が着目したプラセンタは、細胞成長因子(グロースファクター)を多く含み、細胞や皮膚などの人間の身体の成長に必要な「ヒト成長ホルモン」の活性化に作用する。肌に対してはシミ・シワ改善、抗酸化、保湿など様々な効果が期待でき、多機能かつ高機能な美容成分の一つだ。

同社は、プラセンタの「素材鮮度」と「抽出法」に着目し、北海道内で豚を生産する契約農場から厳選した豚胎盤の調達から製造までの工程にこだわったプラセンタ原料を開発した。

契約農場内にマイナス60度の急速冷凍機を導入するなど胎盤の回収から輸送、製造までの品質管理体制を整えることで胎盤の鮮度を維持している。その胎盤を工場内で熱も水もいっさい加えない「非加熱・無加水」製法により抽出することによって、細胞成長因子を多く含んだプラセンタ原料が完成する。

第三者機関による成分評価では、肌に対する様々な評価項目において加熱処理した水溶性プラセンタよりも有意な結果が認められている。

展示ブースでは、非加熱・無加水のプラセンタ原液(コスメを核に、高配合した化粧水やクリームなどを展示する)。

榊将彦社長は「当社が調べた中ではこれほど高純度なプラセンタ原料は他にない」と述べ、「クライアントの企画との組み合わせで『日本初』、さらには『世界初』の化粧品づくりをサポートしていきたい」と話す。

販売開始から1年が経過する今春には、「北海道第2工場」を竣工し、プラセンタ化粧品のバリエーション拡大および量産体制を構築する。

さらに、榊社長は「従来品の品質はそのままに、ニオイを抑えた低臭に進んでいる」ことを明かし、ブースでは従来品との比較サンプルも用意する予定だという。

もともと鮮度を維持した状態の胎盤を使用しているためニオイは少ないのだが、「無臭化」をテーマに今後も研究を進めていく考えだ。

「プラセンタは高い美容効果が期待できる一方で、特有のニオイが原料課題となっている。ニオイ課題を解決してプラセンタ化粧品の可能性をさらに広げていきたい」と榊社長。